

SOCIAL 学生アルバイトも利用できる「休業支援金」
「よく知らない」8割超

新型コロナ収束の目途が立たないまま、大学生らが2年目の春を迎えた。「昨春からほとんどがオンライン授業。友達と仲良くなる機会が減り、旅行や遠出など楽しみにしていた大学生活が送れなかった」。立命館大学総合心理学部(茨木市)3回生の久佐野京香さんはそう話す。今秋に予定していたカナダへの留学も中止に。フリーペーパーを発行するサークルの代表も務めるが、取材ができず昨春からほとんど活動できていないという。

同大経営学部(茨木市)3回生の松本奈々さんは、バイト先の飲食店が昨年4月から5月にかけて休業になった。6月から時短営業を始めたものの、コロナ前は週3~4回だったシフトが、週1回程に減少。バイト代は少ないときでコロナ前の約1/3になった。「周りの友達もシフトが削られてる。バイト先が閉店した子もいるし、遊びに誘っても『お金ない』って」

バイト代の減少などについては、昨年厚労省が創設した「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」(以下「休業支援金」)が利用できる。休業中の賃金(休業手当)が支払われない労働者を対象にした制度で、雇用保険に加入していない学生アルバイトにも申請できる。「休業」には、シフト削減や時短勤務も含まれ、例えば勤務



コロナ前の2019年、体育の授業に出席する松本さんと久佐野さん(右から)

が週5日から3日に、1日8時間から3時間になった場合も支給対象となる。

ただ、認知不足の状況が続いており、シフトワーク大手の野村総合研究所(東京)が今年2月に実施した調査によると、「シフトが5割以上減少」かつ「休業手当を受け取っていない」パート・アルバイト女性の約半数(48.9%)が、休業支援金を「知らなかった」と回答。「聞いたことはあったが、よく知らない」(32.6%)を合わせると、計81.5%に上った。

休業支援金は労働者個人が国に直接申請できるもので、事業主の負担はない。申請期限は中小企業の場合、昨年10~12月の休業分が今年5月末、1~4月分は7月末、5~6月分は9月末とされている。詳しくは厚労省HPで確認できるほか、電話での問い合わせも受け付けている。新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金コールセンター(0120-221-276)。

コロナ禍の先へ ~挑戦者たち~

バル「ボラーチョ」オーナー 浜子 誠一さん



スペインの国旗を手に、購入したキッチンカーの前に立つオーナー浜子さん。

高校を卒業後、留学先のブラジルで出会ったバーの雰囲気が好きだった。「サッカーを見ながら、みんなでお酒飲んでワチャワチャして。そういうのが良いなって」。帰国後、社会人サッカーで偶然知り合ったスペインバル「ハポロコ」のオーナーに声をかけられ2015年頃に入店。ハポロコは当時、茨木と高槻に店をもつ人気店だった。本格的なスペイン料理が楽しめることとあって、連日地元の常連客でにぎわい週末は予約なしでは入れないほど。「お客さんがお客さんと呼んでくれた。スタッフもみんな元気だったし、店の雰囲気も魅力だったと思う」。2017年には4店舗を構えるまでになっていた。

2019年、オーナーとフランチャイズ契約を結び店を運営するように。売上げは順調に伸び、昨年1月、国内で初めて新型コロナウイルスの感染が確認されるも2月、3月は前年の売上げを超えていた。

しかし1回目の緊急事態宣言が発令された4月「急にガッと落ちた」。客足が途絶え、売上げは半分に。7月にはハポロコ4店舗のうち2店舗を売却する話が浮上した。「どうせコロナで失敗するなら、自分でやって失敗の方が良い」とフランチャイズ契約していた店の購入を決意。ハポロコからは完全に独立し、8月には常連客が考えた「ボラーチョ」(スペイン語で「酔っ払い」)を

店名に再スタートを切った。

コロナ禍まただ中での独立。不安はあったが、昨年5月から始めた弁当の販売が功を奏し、売上げは前年の2割減にまで抑えられていた。並行してコロナ対策を講じディナーの時短営業も続けた。「いったん離れたらお客さんは戻ってこない。休業という選択肢はなかった」と話す。

今年5月からは主に週末、キッチンカーでパエリアの販売も行っている。ハポロコ時代の看板メニュー「イカ墨のパエリア」をはじめ2~3種類を提供。「日によって売れたり売れなかったり。でも今はとにかく出店して改善点を見つけていきたい」と試行錯誤を重ねている。

「料理も学ばせてもらって、ハポロコのオーナーは本当にスタッフを大事にしてくれた」という浜子さん。今は自らがオーナーとして、すでに次の店舗展開を考えている。ハポロコでの経験を糧に、浜子さんのチャレンジは続く。

SELECT



1955年 神戸市生まれ。1980年「青」に入会。波多野爽波に師事。2000年「ゆう」入会。田中裕明に師事。編集担当。2010年俳誌「秋草」を創刊し主宰する。毎月発行。句集に『書信』『讀本』『木簡』がある。2018年句集『木簡』で読売文学賞受賞。日本文藝家協会会員。

選者 山口 昭男
やまぐち あきお

【俳句の応募方法】
氏名・住所・年齢・明記のうえ、ハガキ、封書、FAX、下記の応募フォームのいずれかからご応募ください。

【宛先】
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘1-13-23
株式会社シティライフNEW 俳句係まで
FAX 06-6368-3505

【応募フォーム】
<https://pro.form-mailer.jp/fms/f413b102177160>



※締め切りは毎月25日必着 ※いずれも一人5句まで
※掲載は次々号となります
※佳作は掲載をもって発表とさせていただきます。
※お名前と作品を掲載します。

「つぶやき評」
説明的な句にならないためのひとつの方法として、省略があります。省略したところは読み手が自由に想像してください。すべて言葉で言ってしまうと、説明的になります。読み手に察してもらおうことが俳句としては、大事です。

【佳作】
三月の森にひとりの深さかな
一杓で御身の濡るる甘茶佛
おおかたは空堀へ散る桜かな
書き終えぬままの手紙や若葉冷
新聞に落ちる目刺しの焦げた匂い

豊中市 小倉 佳子	吹田市 小澤 桔梗	豊中市 清水寿恵子	真中市 安藤 知明	箕面市 高橋 真美
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

俳句 / HAIKU

4月25日締切りでご投句いただいた中から、山口昭男先生に入選作品を選んでいただきました。

【優秀賞】
なわとびの二三四散る
箕面市 清水寿恵子

【入選】
ずんぐりと蹴傷のある筍よ
吹田市 川内 幸子

眼目は「ずんぐり」。太々とした竹の子とその傷がよく見えます。

薫風や話してみれば佳き男
茨木市 河本 要

そうなんです。外見だけでは決められない。初夏の風が吹き抜けています。

チユリリップ堀の穴から犬の鼻
箕面市 高橋 真美

堀の穴に見えるのは人の目ではなく犬の鼻。ユーモアがあり季語もよいです。

太股の筋肉質や青蛙
茨木市 山崎登代子

青蛙の太ももを筋肉質だという捉えが面白いです。跳ぶ力も十分でしょう。

しゃぼん玉扇ぐ子追ふ子飛びつく子
吹田市 秋山 寛

しゃぼん玉を吹けば、子供たちは様々に動きます。そこをうまく描きました。

FM COCOLO × CITYLIFE 音楽のCOCOLO Vol.24 FM COCOLOの人気DJが季節やテーマに合わせた音楽を紹介。 radiko なら、パソコン・スマートフォンでFM COCOLOが無料でクリアに聴ける! FM COCOLO WHOLE EARTH STATION

イタリアの最新ヒットなのに、日本人が懐かしいアルバム



ALBUM
I Mortali²

ARTIST
Colapesce & Dimartino

海外へ自由に飛び立てない日々が続いていますね。音楽は外国文化に気軽に触れることのできる格好のツール。その点、英語圏以外の音楽もどんどん耳に入って異国情緒を味わうことができるFM COCOLOは、手前味噌ながら、このコロナ禍でますます意義のあるラジオになっていると思います。僕も毎朝、時代、言葉、国、ジャンルを積極的にミックスした選曲をしています。そうすると、時として不思議な発見があるんです。たとえば、僕の生まれたイタリアの最新ヒット曲Musica leggerissima(ムジカ・レツジェリッシマ)。「浮かない気分での時は、とびきりポップな歌が聞きたい」という内容なんです。メロディーとサウンドがその昔の日本の歌謡曲に通じるんです。遠い国の今のヒットに覚える懐かしさって、不思議でしょ? そんな体験ができるColapesce & Dimartinoのアルバム『I Mortali』。音楽にしる、映画にしる、文学にしる、自分たちの文化との違いと共通点をそれぞれ知ることが、海外のものに接する喜びだと思います。ラジオをつけるだけでできるそんな体験、あなたも一緒にしませんか?

Colapesce & Dimartino(コーラペーシェとディマルティノ) / シチリアのシンガー・ソングライターデュオ。それぞれ1983年と82年生まれで同郷なことからこれまでも交流はあったものの、初めてタッグを組んだアルバムが好セールスを記録。収録曲『Musica leggerissima』は、イタリアのグラミーにあたるサンレモ音楽祭2021でも高く評価された。日本盤は出ていないが、各種サブスクリプション・サービスで聴取可能。

SELECT DJ



野村 雅夫
MASAO NOMURA

1978年11月生まれ。日本人の父とイタリア人の母との間に生まれる。2009年、FM802デビュー。2019年10月より、FM COCOLO「CIAO 765」を担当。イタリアの知られざる文化を日本で紹介する、京都ドーナツクラブの代表を務める。イタリアのものを中心に、映画の字幕製作や配給、上映イベント、トークショーの企画、また翻訳も行い、訳書にシルヴァーナ・アゴスティ『誰も幸せになる1日3時間しか働かない国』などがある。NHK Eテレ語学講座「旅するためのイタリア語」にも出演中。